

**【特徴】**

当センター皮膚科は、重症や比較的まれな皮膚疾患が多数受診されるため、診断治療の機会に恵まれていると考えます。レジデント3年間に皮膚疾患全般について、診断を下し、治療技術を身につける事ができます。さらにシニアレジデント以降、外来診療、病棟診療、皮膚外科手術などを行い、皮膚科医師としての技能をより高める事ができます。その結果、皮膚科専門医にふさわしい技術の習得と同時に、最短5年間で日本皮膚科学会認定専門医資格を取ることができます。

**【研修目標】**

## 1. 一般目標

皮膚疾患全般にわたり、遭遇した患者さんの診断を下し、治療方針を策定することにより、内科的・外科的治療の両者を実践できるように研鑽する。

## 2. 行動目標

- (1) さまざまな皮膚疾患に対する皮疹の観察・記載ができる。
- (2) 皮膚真菌感染症に関する真菌学的検査（真菌検鏡・真菌培養）ができる。
- (3) 接触皮膚炎に対する接触原貼付試験 標準系列・金属系列を実施判定することができる。
- (4) 薬疹・アレルギー患者に対するプリックテスト・皮内テストの実施判定ができる。
- (5) 皮膚疾患全般にわたり、診断治療することができる。
- (6) 外来・入院患者治療の退院サマリーを綿密に記載する。
- (7) 皮膚悪性腫瘍についても、手術することができるようにする。
- (8) 難治性皮膚疾患についても臨床診断・病理組織学的診断・治療が行なえるようにする。
- (9) 外用療法・内服薬の適正な選択と使用、抗ヒスタミン剤の投与、ステロイドパルス療法による治療・適切な効果判定と評価ができるようになる。
- (10) ウイルス性疾患・真菌症・非結核性抗酸菌症・皮膚細菌感染症などに対する的確な診断と検査・治療ができる。
- (11) 膠原病・血管炎などに対する全身管理を含めた治療、合併症の精査、治療などの技術を修得する。
- (12) 皮膚良性腫瘍（上皮性腫瘍・毛包脂腺・汗腺・神経系・線維性、血管系、等）、悪性腫瘍（悪性黒色腫・有棘細胞癌・基底細胞癌・乳房外ページェット病・エクリン汗腺・毛嚢脂腺系などの皮膚付属器悪性腫瘍・線維組織球系・血管系神経系悪性腫瘍等）に対する臨床診断技術を習得する。
- (13) 皮膚悪性腫瘍（悪性黒色腫・有棘細胞癌・基底細胞癌・乳房外ページェット病・エクリン汗腺・毛嚢脂腺系などの皮膚付属器悪性腫瘍・線維組織球系・血管系神経系悪性腫瘍）に対する診断と治療ができる。
- (14) 皮膚悪性腫瘍の臨床診断と所見の記載・皮膚生検・術前全身検索・病期の判定と病期別治療指針などの計画策定ができる。放射線療法の計画・化学療法のメニュー選択と実施ができる。
- (15) 悪性リンパ腫の診断および化学療法、放射線療法、紫外線療法が行える。
- (16) 臨床所見に対する視診・皮膚生検・蛍光抗体および免疫組織化学的検索などにより的確な診断を行える。
- (17) 母斑症・色素異常症・代謝異常症・皮膚形成異常疾患の診断と検査・指導が行える。
- (18) 下腿潰瘍・褥瘡・糖尿病性壊疽、これらに対する評価MRA、API、超音波診断・外用処置・壊死組織除去・植皮などによる再建術が行える。
- (19) 糖尿病・高脂血症・高血圧・血管障害などに対する合併症の診断・評価・治療が行える。
- (20) 日本皮膚科学会認定専門医資格が修得できるようにする。日本皮膚科学会入会后、5年後を目標に皮膚科学会認定専門医資格を取得できるようにする。

**【方略】**

- (1) 各科・各部門との連携を円滑に行い、全身性疾患の精査を円滑に行う能力を養う。
- (2) 皮膚疾患の基礎知識、診断基礎、治療技術、皮膚病理学の教育を受けるとともに、皮膚疾患の内科的治療、皮膚外科的治療を指導医の指導下を実施し、習得する。
- (3) 病棟入院治療を行なっている患者について、病状説明、検査方針、検査結果、治療方針、治療成果について指導医とともに討論する。血液検査、CT・MRI・血管造影・PET・超音波検査などによる全身検索をおこない、原疾患の診断と全身状態の評価、合併症の有無などを診断し、治療計画を策定する。各種治療（抗菌剤・抗ウイルス剤・ステロイド・免疫抑制剤・抗がん剤の全身投与、手術療法、放射線療法、光線療法）に対する反応を評価する。  
呼吸器、循環器、消化器、腎臓、脳神経などの機能について、検査を行い、各臓器の機能を調査する。
- (4) 重症患者に対する治療、手技を指導医のもとに実習する。綿密なカルテ記載、退院サマリー記載を通じて、疾患への理解を深める。
- (5) 腫瘍摘出術・単純縫縮術、皮弁形成術・全層～中間層遊離植皮術を自分でも執刀医として行えるようにする。
- (6) 手術患者について、手術サマリーを詳細に記載する事により、手術への理解を深める。
- (7) 上級医とともに病理標本を丹念に観察しながら指導を受け、疾患について成書に記載された部分を熟読し、理解を深める。
- (8) 教本、専門医学雑誌の該当事項を読み、指導医や同僚とクリニカルカンファレンスを開くなどして討論する。
- (9) 講習会、学会に出席してその要点をレポートにまとめて提出する。
- (10) 年間2回以上の学会発表、1篇以上の論文執筆を实践する。

**【評価】**

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ研修医が研修内容をどのように修得したかをチェックする評価を行なう。

**【研修プログラム】**

**〔レジデント〕**

1年目（卒後3年目）	2年目（卒後4年目）	3年目（卒後5年目）
外来診察見学・処置、病棟担当医、手術室手術介助、学会発表	外来診察・外来小手術、病棟担当医、手術室手術介助、学会発表	外来診察、外来小手術 病棟担当医、手術室手術介助、学会発表、論文作成

**〔シニアレジデント〕**

1年目（卒後6年目）	2年目（卒後7年目）	3年目（卒後8年目）
外来診察、外来小手術、病棟主治医、学会発表、論文作成	外来診察、外来小手術、病棟主治医、学会発表、論文作成	外来診察、外来小手術、病棟主治医、学会発表、論文作成
皮膚科学会認定専門医希望者は上記の期間を通じて必要な皮膚科研修を行う		

**【見学等問い合わせ先】**

皮膚科部長 國行 秀一